

# 高生産性地域輪作システム確立のための技術開発

－土地利用型農業の生産性向上を目指して－

## 1 趣 旨

- (1) 我が国の土地利用型農業は、北海道畑作では農業従事者が減少してきていること、水田作では経営面積が小さく生産コストが高いこと等の問題点を抱えている。
- (2) 新たな食料・農業・農村基本計画に示された品目横断的経営安定対策の導入に向け、平成17年10月には「経営所得安定対策等大綱」がとりまとめられたところであり、これらの実現に向けては、個別の作物だけでなく、北海道の畑作や各地域の水田作における輪作技術を見直し、規模拡大と生産性の向上を両立する輪作体系を確立することが重要である。
- (3) このため、本研究では、輪作体系における規模拡大等の阻害要因を克服するための作期競合の回避、複数作物への汎用利用が可能な機械の改良などの技術開発を産学官が連携して加速化するとともに、それら技術を核とした、我が国の主要な気候・土壌条件に対応した高生産性地域輪作システムを確立するための研究開発を実施する。

## 2 内容

### (1) 高生産性畑輪作システム確立のための技術開発

北海道の畑作農業経営の規模拡大を阻害している馬鈴しょの収穫作業と麦の播種作業の作期競合を回避するため、馬鈴しょの収穫作業の効率化を可能とするソイルコンディショニング技術を核とした、バランスのとれた効率的な畑輪作システムを確立する。

### (2) 高生産性水田輪作システム確立のための技術開発

稲・麦・大豆を中心とした各地域の水田経営について、規模拡大や安定生産を阻害している麦・大豆の作期競合及び水稻春作業への作業の集中、降雨による麦大豆の播種適期の短さ等を克服するため、稲・麦・大豆に対応可能で播種(移植)作業の省力化と適期播種を可能とする不耕起栽培技術を核とした生産性の高い水田輪作システムを確立する。

- |               |                       |
|---------------|-----------------------|
| 3 実施主体        | 独立行政法人、民間、大学、公立試験研究機関 |
| 4 実施期間        | 平成17年度～平成19年度         |
| 5 平成18年度概算決定額 | 121(130)百万円           |

(担当課：農林水産技術会議事務局 地域研究課)